



福島県の獣医師

(福島県動物愛護センター・福島県中央家畜保健衛生所)



採用情報・
各種申し込み・
問い合わせは
こちらから

①犬猫の保護・収容、収容された動物の一定期間飼育管理、譲渡 ②家畜の伝染病予防、衛生指導業務、病性鑑定



③犬を飼うために必要なルールやマナー、しつけの方法等について、講習会を行っている ④犬舎や猫舎は全て個室で、他の個体からのストレスや感染症の防止対策を図っている ⑤犬とのふれあいを通じて、命の大切さや相手を思いやる気持ちを育むことを目的に、小学校への獣医師派遣事業を行っている ⑥譲渡する猫にマイクロチップを装着し、迷子になった場合でも飼い主がわかるようにしている

永富さんの1日

「福島県動物愛護センター」獣医技師のお仕事を紹介

完全週休2日制であることに加え、年休、夏休み、子育て休暇等、福利厚生が充実しているので仕事とプライベートの充実が可能。永富さんも育児休暇を取得し、家族と貴重な時間を過ごすことができた。

- 8:30 登庁
- 8:40 犬の健康状態の確認
- 9:40 不妊去勢手術
- 12:00 昼食
- 13:00 犬の譲渡準備、馴致訓練、ホームページに掲載する写真・動画の撮影など
- 15:00 動画の編集
- 16:00 事務作業
- 17:15 退庁



永富豪人さん

Profile
入庁/2019年4月
所属/福島県動物愛護センター

現在、獣医師として働く福島県職員は93人。動物愛護、家畜保健衛生、公衆衛生など幅広い分野で業務を担当。その仕事は多岐にわたり、私たちの日常生活や食に直結している。

三春町の「福島県動物愛護センター」では収容された犬猫の譲渡に向けた健康管理、馴致訓練、犬や猫に関する住民からの苦情対応など、幅広い業務を担っている。入庁6年目の獣医師、永富豪人さんは使命感を持って仕事に取り組む。「犬猫を扱う獣医師ですが、同時に地域住民の生活環境を守る公務員です。犬猫のことに目が行き過ぎて困ることがある住民を置き去りにしないように住民の声をしっかりと聴くように心がけています」と話す。福島県の課題でもある猫の引取り数及び殺処分数の削減にも注力し、安易な餌やりを行わないように啓発活動を行い、住民主体の地域猫活動の支援事業を推進。収容された猫には不妊去勢手術を実施している。

公務員獣医師が県内で活躍
愛護センターが命をつなぐ

福島県の安全な暮らしと食のために 動物の保護、家畜の防疫に取り組む



福島県動物愛護センター(ハビまるふくしま)のドッグランで保護犬と触れ合いながらしつけ訓練をする永富さん



①譲渡に向けて保護猫を人に慣らすために、事務所の中で一緒に過ごす場合もある。職員の皆さんもかわいらしさに癒やされている ②愛情を込めて犬猫を見守っている「福島県動物愛護センター」の皆さん。現在9名の獣医師が所属している



伝染病予防のために牛の検査をする

北海道出身で入庁11年目の獣医師、神川綾香さんは、学生時代に動物の病気や病原体に興味を持ち、獣医師を目指したという。「実際の現場で働き、家畜の病気を減らしたいと思いました。治せる家畜には限りがありますが、行政ならば地域全体の家畜の病気を減らすことに、より貢献できると思います、公務員獣医師を目指しました」と振り返る。住み慣れた北海道と違う環境で働いてみたいと思ったことと、母方の祖父が福島県新地町出身だったこともあり、所縁のある福島県を選んだ。



平成30年2月に新しく中央家畜保健衛生所を開所。最新鋭の機器を使用して診断を行うことができる

自分らしく働ける職場環境 農家に寄り添い地域に貢献

鳥インフルエンザや豚熱などの予防的な検査、家畜の伝染病などの原因を特定するために専門的な検査を行っている神川さん。検査の結果を基に畜産農家への指導も実施。家畜の病気が地域に広がると影響が大きいため、対策は重要だ。

「農家さんに寄り添ったプラン作成や指導を心がけています。高齢の農家さんもあるため、病気を防ぐ衛生対策などはなるべく負担がかからず継続可能であるように提案しています」。畜産農家と協力して取り組む中で、「病気が少なくなった」や「肉の評価が上がった」と喜ばれることは達成感につながる。

神川さんは産休・育休を経て、現在は育児短時間で勤務。「福利厚生も充実しており、たくさんの女性職員が活躍しています」と微笑む。自然に恵まれた福島県での暮らしを楽しみ、休日はお子さんを連れて公園やスキー場に出かけることが多いそう。ワークライフバランスの良さも公務員獣医師の魅力だ。



病気の診断や対策を職員同士で検討し合うことも多く、組織内での信頼関係が築かれる

神川さんの1日

「福島県中央家畜保健衛生所」獣医師のお仕事を紹介

防疫課 主任獣医技師の神川さんは現在、子育て中(3歳児の母)のため、「育児短時間」で勤務。女性が安心して働ける環境で、仕事と育児を両立させている。

- 9:00 登庁
- 10:00 牛・豚・鶏などを検査するため車で畜産農家へ移動
- 10:30 農家到着
打合せ後、家畜から採血
- 12:00 昼食
- 13:30 帰庁
検査室で血液検査や寄生虫検査
- 16:00 事務作業
- 17:15 退庁



神川綾香さん
Profile
入庁/2015年4月
所属/福島県中央家畜保健衛生所 防疫課

採用情報

- 採用試験 年3回試験を実施予定
詳細については、前頁のQRコードからHPを確認
- 給与 <令和8年4月1日新規採用者の給与の例 大学新卒の場合>
動物愛護センター、家畜保健衛生所に勤務:月額321,300円※1 + 諸手当※2
※1 給料月額のほか、初任給調整手当等を含む、基本的な給与の額
※2 通勤手当、住居手当、超過勤務(残業)手当、期末・勤勉手当(ボーナス)等がそれぞれの要件により支給される
- 問い合わせ先 ・福島県保健福祉部保健福祉総務課(公衆衛生分野)
TEL/(024)521-7219 E-mail/hofukusoumu@pref.fukushima.lg.jp
・福島県農林水産部農林総務課(家畜衛生分野)
TEL/(024)521-7391 E-mail/soumu.aff@pref.fukushima.lg.jp

業務内容

●動物愛護センター

犬猫に関する相談・引取り・譲渡、しつけ方・飼育講習、ペットショップ等への指導・監視、小学校への獣医師派遣事業など、人と動物が共生する社会を実現するため、動物による危害防止や動物の愛護及び適正飼養の普及啓発を行う

●中央家畜保健衛生所

牛・豚・鶏・馬・ミツバチなど様々な家畜の検査や畜産農家に対する衛生指導を行うことで、家畜の病気の発生や感染の拡大を防止し、地域の畜産業の安定と安全・安心な畜産物の生産を支える

保護された犬猫の変化や譲渡した喜びもやりがい

永富さんが獣医師を目指したきっかけは、小学生の時に読んだ「WILDLIFE」という漫画で野生動物を治療していく獣医師に憧れたから。福島県を選択したのは、実家のある千葉県や都心からのアクセスも良く、年に数回、獣医師採用試験を実施していたことも理由だった。「手術にも一定の憧れを持って獣医師になりました。手術時の緊張感がありますが、犬猫を扱うことに負担を感じてはいません。公務員獣医師でありながら相当数の手術を経験できるため、獣医師の資格を十分に生かせる」と教えてくれた。

動物愛護センターでは人に慣れていない犬猫もたくさん収容されている。「日々の管理をしていく中で少しずつ気を許してくれる様子を見るとうれしいです。また、そうして長く管理していた犬猫たちが新しい飼い主さんにもらわれて行くときは一層の喜びがあります」と笑顔があふれる永富さん。譲渡のため

検査・指導などを通して 畜産を守る家畜保健衛生所

玉川村にある「福島県中央家畜保健衛生所」では、獣医師たちが、牛・豚・鶏・ミツバチなどを含めた「食べ物を生産する家畜」の健康管理を行う。業務としては、家畜の病気の検査・研究、畜産農家への指導のほか、豚熱の発生を防ぐためのワクチンの接種や伝染病対策の啓発のための講演活動など、仕事は多岐にわたる。

現在は妻子とともに、三春町に在住。「福島県はフルーツやラーメンなど、おいしいものがたくさんあります。キャンプ場やスキー場も多く、家族で休日を楽しんでいます」と仕事もプライベートも充実している。

県民の生活や畜産業の振興において なくてはならない公務員獣医師



7「福島県中央家畜保健衛生所」の検査室。設備の整った検査室で、家畜の様々な病気の検査を行っている 8木をふんだんに使った新庁舎で職場環境も快適 9真摯に仕事に邁進する神川さん(右) 10鳥インフルエンザの検査のために鶏から採血をする

